

第 218 回浜田市教育委員会定例会議事録

日 時：令和 5 年 8 月 22 日（火） 13：30～14：35

場 所：浜田市役所北分庁舎 2 階会議室 1

出席者：岡田教育長 杉野本委員 花田委員 岡山委員 倉本委員

事務局 草刈部長（欠席） 藤井課長 山口課長 鳥居室長 山本課長

書記：日ノ原係長 川村主任主事

議事

1 教育長報告

2 議題

- (1) 令和 5 年度教育委員会学校訪問（幼稚園）について（資料 1）
- (2) 浜田市立小中学校条例の一部を改正する条例について（資料 2）
- (3) 浜田市立小学校及び中学校の通学区域に関する規則の一部を改正する規則について（資料 3）
- (4) 浜田市附属機関設置条例の一部を改正する条例について（資料 4）
- (5) 浜田市美術品等収集委員会規則を廃止する規則について（資料 5）

3 部長・課長等報告事項

4 その他

- (1) その他

1 教育長報告

岡田教育長

皆様、暑い中お集まりいただき、ありがとうございます。

今、テレビで甲子園の試合を熱中して見ているが、いよいよ決勝戦を残すのみとなった。甲子園の優勝校が決まれば、いよいよ 2 学期が始まるということで、学校の方も準備にそろそろ入れると思っている。

私のひと月の教育長報告については、資料をご覧くださいと思う。今年 7 月に、浜田市では島根県内の自治体で 2 番目の人権条例となる浜田市人権尊重のまちづくり条例を制定した。依然として様々な人権侵害や差別がなくなっていない中で、とても大切な条例だと考えている。

そして、この条例制定に呼応するかのように、8 月には浜田市やあるいは教育委員会だけでなく、様々な組織の皆さんが人権講演会などを計画され、今週末にも開催予定があるが、私もいろいろ

ろ拝聴させてもらい、多様な人権問題について考える良い機会になったと思う。

そうしたことを中心に、この資料に沿って、報告をさせていただきたいと思う。

① 7月30日（日）浜田市まちなか交流プラザオープニングイベント

7月30日に浜田市のまちなか交流プラザがいよいよオープンし、岡山委員さんにも関わりを持っていただいているため、ぜひ高校生の地域活動や、あるいは県大生の研究報告等、オープニングの時は、そうしたことからスタートを切ったわけだが、今後も若い人たちと地域をつなげる拠点として、プラザが活用されるといいなと思う。

② 8月1日（火）島根県人権教育研究大会（県立大学コンベンションホール）

8月1日に、島根県人権教育研究大会が浜田市で開催された。この記念講演では、TBSのサンデーモーニングのコメンテーターとして出演中のフォトジャーナリスト、安田菜津紀さんを講師に迎えて、「共に生きるとは何か」という演題でお話を伺った。戦争下にある難民の写真などを実際に見て、人権について改めて考える機会となった。

③ 8月4日（金）ふれあいフォーラム（石央文化ホール）

8月4日ふれあいフォーラムには、委員の皆様方にご参加いただいた。浜田市出身で、東京都教育委員会公立学校スクールカウンセラーの大賀一樹さんの話を聞きながら、性の多様性への理解と、教育現場でのこれからの相談体制について考える機会となった。

④ 8月11日（祝）浜田市立中央図書館・三隅図書館開館10周年記念講演会（中央図書館）

8月11日には浜田市立中央図書館、並びに三隅図書館が開館10周年を迎えたということで、この中心的なイベントとして、児童文学作家の村中李衣さんにご講演をいただいた。このことはこの後、部課長報告の中で詳しく触れられると思う。

台風が来ていたため、2日前から浜田に入っていたいただいて、講演会前、前日の交流会にご一緒させていただいた。さすがに割烹で本の読みあいをするとは思わなかったが、そこに参加されていた皆さんと本の読みあいをした。実際にそういう体験を

してみると、本の読みあいというのは、決して子どもだけのことではなく、大人の心に響くと改めて感じた。人との繋がりを意識された講演会になったと思う。

⑤ 8月20日（日）浜田市ひとつづくり特別講演会（県立大学講堂）

8月20日には、浜田市のひとつづくりの特別講演会ということで、栗山英樹さんをお招きし、WBCの舞台裏の話も聞きながら、やはり組織の気持ちを1つにまとめるということで、多くのヒントがあったと思っている。

また、栗山さんの人柄や心遣いが本当ににじみ出ていた講演だったと思う。

⑥ 8月21日（月）浜田市文化財指定書交付式（石見神楽蛇胴製作技術・植田倫吉さん）

続いて8月21日、浜田市の無形文化財として、石見神楽蛇胴製作技術、植田倫吉さんの指定書の交付式があった。石見神楽は、この地域に伝わる大切な文化である。さらに、その文化がこの地域に根付いて、浜田だけでなく、多くの地域に伝播しているというのは、それを支えておられた神楽に関する衣装なり、面なり、蛇胴なりの製作者の力添えがあったからこそと思っている。

植田さんはまもなく90歳になられるということで、文化財の指定を急ぎ、ようやく交付式を行うことができ、私も少し安堵しているところである。

⑦ 8月22日（火）長浜人形寄贈お披露目式・感謝状贈呈（竹内惟臣さん・浜田城資料館）

今日、8月22日だが、浜田城資料館で、竹内惟臣さんから寄贈をいただいた長浜人形252点のお披露目会があった。

もし、委員方も時間があれば、ぜひ浜田城資料館へ行き、一度その人形を見ていただくと嬉しく思う。

1か月間の報告は以上である。

これまでのところで、ご質問等はあるか。

特になし。

各委員

2 議題

(1) 令和5年度教育委員会学校訪問（幼稚園）について（資料1）

日ノ原係長

資料1をご覧ください、幼稚園の学校訪問である。

日程については、令和5年9月29日金曜日、10時05分から11

時 15 分である。石見小学校を訪問した後の訪問になる。

訪問園については浜田幼稚園、訪問者については、教育長、教育委員方、教育総務課長、総務企画係長の 7 名で出席したいと考えている。

訪問内容については、幼稚園内の視察、その後ヒアリングということで、意見交換会のテーマとして事務局より案をご用意させていただいた。今回、浜田幼稚園ということで、統合後における課題、続いて、今年度から通級教室を設置しているため、そちらの課題について、3 点目として幼児教育センターを設置したため、そちらの課題についてという 3 点を案としてご用意させていただいている。

日程については、事前に委員方に小学校の学校訪問のところで調整をさせていただいたため、本日は意見交換会テーマについてご審議をよろしく願います。

岡田教育長

ただいま事務局から説明があった幼稚園の訪問日時については委員方のスケジュール確認をさせていただいた。その中で意見交換のテーマが 3 点掲げているが、この点について、ご意見をいただきたいと思う。

幼稚園統合をして 1 年目でもあり、この幼稚園が新しく機能を整えたのが通級教室と幼児教育センターということで、この辺りの確認と意見交換ができればと考えているが、内容はよろしいか。

各委員

全会一致で承認

岡田教育長

では、異存なしということで、この内容で進めさせていただきたいと思う。

(2) 浜田市立小中学校条例の一部を改正する条例について (資料 2)

日ノ原係長

資料 2 をご覧いただき、こちらについては本日ご説明させていただき、承認の後、9 月議会に上程する予定となっている。

目的・理由は、令和 4 年 10 月に策定した浜田市立小中学校統合再編計画に基づき、浜田市立雲雀丘小学校及び浜田市立第四中学校を令和 6 年 3 月末で閉校することに伴う所要の改正である。

概要をご覧いただき、小学校の表と中学校の表、それぞれのところで、浜田市立雲雀丘小学校、浜田市立第四中学校を削るというものである。

施行期日については、令和 6 年 4 月 1 日である。

説明については、以上である。

岡田教育長	これは学校の統合に伴い、廃校となる学校を条例から削除するということの提案である。内容について、よろしいか。
各委員	全会一致で承認
岡田教育長	ありがとうございます。 では、このとおりに提案させていただきたいと思う。

(3) 浜田市立小学校及び中学校の通学区域に関する規則の一部を改正する規則について（資料 3）

日ノ原係長	資料 3 をご覧いただき、こちらについては、先ほどの雲雀丘小学校、第四中学校を削るということに伴い、通学区域の変更を行うものとなる。 次ページの新旧対照表をご覧いただきたい。まず、別表第 1 の小学校の表である。こちらについては、雲雀丘小学校の通学区域の「原井町、笠柄町」を雲雀丘小学校から削り、原井小学校に追加するものである。 続いて、別表第 2 は中学校の表である。第二中学校から「浜田市立雲雀丘小学校の通学区域」を削り、第三中学校に「浜田市立美川小学校の通学区域」を追記、次ページの第四中学校を削るといふかたちの改正になっている。 こちらの方は、以上である。
岡田教育長	ただいま、小中学校の廃校に伴い、小中学校の校区についても修正する必要があるということで、今説明があった内容の規則の改正について質疑があればお願いします。
日ノ原係長	こちらの規則は、条例が可決されれば、それに合わせて同日に交付したいと考えているため、本定例会でご承認いただければと思う。
岡田教育長	はい。この内容についていかがか。
各委員	全会一致で承認
岡田教育長	では、条例が承認された折には、この様に手続きを進めたいと思う。

(4) 浜田市附属機関設置条例の一部を改正する条例について（資料 4）

山本課長	こちらは、浜田市附属機関設置条例の一部を改正する条例ということで、浜田市美術品等収集委員会について、所期の目的を達成したことに伴い、当該委員会を廃止するため、所要の改正を行うものである。
------	---

概要としては、附属機関の設置等について定める別表から次の附属機関を削るとしている。名称は、浜田市美術品等収集委員会、担当事項は、教育委員会の諮問に応じ、美術品その他の芸術、歴史及び民俗に関する資料の収集に関し必要な事項を審議することとなっている。これについては、世界こども美術館の開館当初に収蔵する絵画を収集するための委員会であり、こども美術館は平成8年に開館しているが、開館前に1回と開館直後に1回の計2回開催しており、それ以降は開催されていない。これはもう所期の目的を達成したということで、このたび条例を改正し、廃止するものである。

岡田教育長 ただいま説明があった内容について、委員方からご質問等あるか。

もし今後、美術品を整備する、購入するという事になった時はどのような手続きになるか。

山本課長 その場合は随時審議をさせていただくと思う。改めてこのようなかたちで委員の選任をお願いすることは考えていないが、必要に応じて専門家の方に提案をして、審議をお願いする。

岡田教育長 その他、ご質問等あるか。

関連があるので、次の議題(5)浜田市美術品等収集委員会規則を廃止する規則についても併せて説明をお願いする。

(5) 浜田市美術品等収集委員会規則を廃止する規則について(資料5)

山本課長 こちらにつきましては、先程の条例の改正に伴い、規則の方も廃止するというような内容になっている。

以上である。

岡田教育長 特にご質問等はないか。

各委員 全会一致で承認

岡田教育長 では、質問がないため、浜田市附属機関設置条例の中から、浜田市美術品等収集委員会については削除するという事で条例提案させていただき、それが通れば、関連する規則の廃止をするということで、委員会として承認をいただいた。

3 部長・課長等報告事項

藤井課長 行事等予定表(資料6)

8月22日から9月30日の行事等予定表の説明をさせていただく。特に教育委員方にご出席をお願いしたいところについて

	<p>は、丸印をつけている。</p> <p>3つ丸印があるが、まず8月31日の少年の主張浜田市大会だが、先ほど会が始まる前に、学校教育課長から出欠の確認をさせていただいた。よろしく願います。</p> <p>次に9月26日は、次回第219回の教育委員会定例会になる。同じくこちらの北分庁舎会議室で13時30分から予定をしている。</p> <p>一番下だが、こちらが先ほど議題にあった幼稚園等の訪問になる。この日は、石見小学校と浜田幼稚園を予定している。</p> <p>以上である。</p>
岡田教育長	<p>ただいまの行事予定について、委員方で確認しておきたいことがあるか。</p>
各委員	<p>特になし。</p>
藤井課長	<p>中央図書館・三隅図書館開館10周年記念イベントについて(資料7)</p> <p>資料7をご覧ください、中央図書館・三隅図書館10周年記念イベントについてである。</p> <p>先ほど、教育長の話にもあったが、去る8月11日金曜日に中央図書館・三隅図書館の開館10周年の記念イベントがあった。いくつかイベントを行い、表に3つ、裏に2つご紹介をさせていただいている。</p> <p>その中で、特に村中李衣さんという児童文学作家の講演会があった。こちら、私も参加させていただいたが、この日、実は予定をされていた本が台風で届かなかったということで、おそらく当日急に講演の内容を変更されたと思うが、非常に興味をそそられる軽妙な語り口で、1時間半あっという間に終わって、すごくいいお話をいただいた。</p> <p>特にビデオを見せていただき、全く本に興味のない子どもさんが、先生がお話をされていく中で、どんどん先生の方へ視線を向け、体を向け話に引き込まれていくという様子を見て、すごいなとただただ感心をした。改めて、本の持つパワーを実感させていただいた。</p> <p>もう1つ、裏面の5にある高校生の企画コーナーについて報告させていただく。こちらは高校生がボランティアとして、地域協働活動プロジェクトにより、市内の浜田高校生と浜田商業</p>

	<p>高校生 14 名が自分たちで何をやるかというところから運営まで企画して行ったコーナーであった。講演会が終わった後のぞいてみたが、最後の方、すごく楽しそうに皆さん参加されていて、印象的だったのは、参加されている子どもさんはもちろんだが、それをされている高校生もすごく楽しそうにやっていて、とてもいい企画だったのではないかと思った。</p> <p>以上である。</p>
岡田教育長	<p>ただいまの、市立図書館の開館 10 周年記念イベントについて何かご意見、ご質問等あるか。</p> <p>当日は、学校図書館司書の皆さんも聞いておられたり、浜田だけではなく、江津や益田等から、村中さんの絵本に出会われた方も来ておられたりして、ぜひ続けて、村中さんの指導を受けたいという声も多く、学校図書館に携わっておられる方には大変参考になったイベントであったと思う。</p> <p>ご質問等はよろしいか。</p>
委員方	<p>特になし。</p>
山口課長	<p>中学校部活動における全国大会出場について（資料 8）</p> <p>中学校の部活動の全国大会出場者を掲載している。今年度、陸上は今日からスタートするが、第一中学校から 3 名、柔道は三隅中学校から 1 名、裏面にある男子ソフトテニス第一中学校から 8 名、以上が全国大会に出場する。</p> <p>3 ページ以降は、県大会上位、3 位以上のものを掲載しているので、ご一読いただきたい。</p> <p>以上である。</p>
岡田教育長	<p>今、中学校の部活動の全国大会出場の予定や県大会の結果の説明があった。</p> <p>よろしいか。</p>
各委員	<p>特になし。</p>
鳥居室長	<p>令和 5 年度全国学力・学習状況調査結果（概要）について（資料 9）</p> <p>資料 9 と資料 10 だが、全国学力・学習状況調査結果についてである。</p> <p>資料 9 については、総務文教委員会で提出をしたものである。この後、教育委員会の定例会をうけて、ホームページにアップ</p>

していく。資料9は文章が非常に多いため、これは省略させていただきたい。

令和5年度全国学力・学習状況調査浜田市結果概要及び今後の対応（資料10）

資料10、こちらの方がわかりやすいため、こちらを使わせていただきたいと思います。

9月5日の校長会、それから、それを受けた後の教頭会で説明しようと思っている資料である。その後、解説音声をつけて、各学校に配布し、研修と今後の協議に活用していただければと思います。先ほどの総務文教委員会に出したものと少しページ構成が違っているため、ご承知おきいただきたい。

まず、このスライドに沿いながらやっていくが、それぞれのスライドの右下のところにスライド番号が振ってあるため、途中飛ばして説明する時にスライド番号を申し上げるため、参考にさせていただきたい。

最初、今見ていただいている下の段である。ここに概観ということで掲載している。1番の平均正答率については、調査中のため省略させていただきたい。

結論からいうと、米印にしているが、授業改善の取組成果は表れてきているという認識をしている。

それから2番目、授業改善の状況である。これは文部科学省の報告書に出しているものに沿ってやってきたものであるが、少し課題だと思えるのが、一番上、「課題解決に向かい、自分で考え、自分から取り組む」。これは、こどもの声でつくる授業の重点としている。これについては、肯定率が下降している。ただ学校はやっているといっているため、認識にずれがある。ここは課題だと思える。学校は、考え直していかなければならない。

2番目に重点としてあげている部分だが、小学校は若干下降しているが、中学校は伸びているということで、取組ができているだろうと認識している。

調査項目で、文部科学省が授業改善、主体的・対話的で深い学びの項目で挙げていた中では、浜田市が最も低かったのは、「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発言や発表」をしているかというのが一番低い。

これは後ほど述べるが、ここが浜田市の子どもたちの課題と直接結びついている。

それから、最後の丸である。校内研修が行われているというのがデータで出ている。ただし、専門性を高めるための校外の研究会への参加、これについては、特に中学校に課題がある。

3 番目、家庭学習は依然課題がある。以上が概観である。

1 枚めくっていただき、上のスライドナンバー3 だが、概観②として今後の方向性を示している。各教科については、この後それぞれの教科のところで出てくるが、全体として、知識・技能の確かな定着に向かっては、1 単位時間の授業の中で習得した知識を活用する時間をより多く設定する。もう1つが、各学校が実施している方策を進めていただきたいということ。

それから、授業改善、特に思考、判断、表現ここに関することだが、浜田市の子どもたちの課題は赤字にしているが、これは依然課題のままである。

2 番目の丸、「子どもの声でつくる授業」を核としながらという次のところ、特に個人思考時間の在り方を再考してほしい。それから、出された考えを子ども自らが比較し検討する話し合いを充実してほしい。

特に、個人思考時間のあり方の再考というのは、一番最初に言った習得した知識を活用する時間、これをより多く設定していただきたいというところに、直接結びつく。個人思考の時間を全員が同時に長くやっているのに活用するところまでいかない、活用しないから身につかないというところがあるため、ここをしっかりとやっていただきたいという方針を出している。

それから 3 番目だが、「キャリア・パスポート」これを充実させることと、特別活動（特に学級活動（1））の充実を図ってほしい。

4 番目、家庭学習については計画を立てて取り組む、各中学校区の方針を各学校で確実に実施してほしい。

以上、今後の方向性として、おおまかに打ち出している。

では、具体的なことに入らせていただく。教科の平均正答率の小学校である。見ていただいたとおりだが、前回調査よりも、県との差、国との差ともに縮めている。県は、国との差が拡大しているが、浜田市の場合は縮小しているため、頑張っているなどと思う。

中学校は次のページである。県との差、国との差、課題であった数学は差を縮めているため、今まで取り組んできた成果が少しずつ出てきているなど思っている。

それからその下のスライド、県との差をずっと経年で追いかけているが、これは見ていただいたとおりの改善傾向にはあるだろうということが読み取れる。1枚めくっていただいてスライドナンバー7と8、これを見ていただいても、改善はしているということが読み取れると思う。

続いて隣のページ、スライドナンバー9であるが、小学校については、すべての問題形式において前回調査より改善が見られている。それから課題であった記述式についても改善が図られている。中学校については特に記述式に課題があるというところで見ている。

下のスライドは正答率の分布である。左側が昨年度、右側が今年度である。小学校の国語と算数だが、依然として高正答率の層の子は少なく、そこには課題があるが、全国と県の分布に近づきつつあるということが見て取れる。

1枚めくっていただいて、中学校の正答率の分布である。国語と数学であるが、国語は全国や県に近づきつつあるが、数学について若干気になることが、低正答率の飛び出しが見られる。この辺りを中正答率層や高正答率層に持ち上げていく授業改善が必要、授業の形態を考えていく必要がある。

下のスライドは中学校の英語だが、これが一番の課題であると思っている。

前回調査が令和元年度であったため、それとの比較になるが、全国もそうであるが、明らかに低正答率層の割合が増えている。ここについて、少しテコ入れをしていかないといけないかなというふうに思っている。

教育委員会は英語の指導主事がいなくなり、中学校の市教研の英語部会とタッグを組んで研修会を行う予定で、講師は、前指導主事の前原先生である。

それから、次の正答率分布にも少し関わるかと思うが、教科が「好き」や「よく分かる」というのも載せているが、これは省略させていただく。

ページをめくっていただき、スライドナンバー18、正答率上位3設問（小学校国語）であるが、浜田市の特徴を見るために、

各教科の県との差の上位3設問と下位3設問、それから単純に浜田市の上位3設問と下位3設問を挙げている。詳しくは省略させていただくので、また後ほど見ていただければと思う。これらをもとに各教科の指導のポイントを出している。

1枚めくっていただき、右側のページのスライドナンバー22である。ここに今後の方向性として出している。ポイントは、やはり読解力の指定校、図書館活動の指定校、この取組をしっかりと広げていくことであると思う。中学校については、自分の考えを書いていく活動、ここをしっかりと授業の中に取り入れていく必要があると思っている。

1枚めくっていただき、ここから算数、そして数学が出ている。また1枚めくっていただき、スライドナンバー27【算数・数学】今後の指導のポイントである。算数、数学は、独自に子どもの声でつくる授業に合わせて指導ポイントを各学校に伝えているが、そのことを徹底してやりましょうということ、それから算数アドバイザーの前田教授の指導をしっかりと定着させていくこと、この辺りがポイントだと思う。

その下のスライドからは英語だが、スライドナンバー30である。1文1文の理解は優れている。浜田市の子どもたちの強みである。ただし、長文の中で概要を捉えたり、自分の考えを合わせて書いたり、そういったところが少し欠けている。したがって、生徒が目的を持っているような活動ができるようにする、そういった授業を仕組んでいく必要がある。旧態依然とした指導では追いつかないというところは、確実に見えている。前原教頭には、そこをしっかりと指導してほしいと伝えている。

続いてスライドナンバー31である。問題形式別の県との差を見ていったが、小学校については改善傾向が見られる。中学校については、やはり記述式のところに課題がある。

次のところからは授業改善について、児童生徒の意識調査、児童生徒質問紙、それから学校質問紙、これをもとに文部科学省の分析に従って、分析をしている。スライドナンバー32のところには、文部科学省が今回報告書の概要として挙げた3つをそのまま転記している。3番について分析してもあまり意味がないため、1番と2番についてのみ分析している。

次のページから、質問ごとに関連する児童生徒質問紙と学校質問紙、これを併せて載せている。したがって、一括してお話

させていただくため、グラフ等の動きについては後ほどゆっくりご覧いただければと思う。

まず、先ほどの課題のところだが、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいるか。これは、実は正答率と意識調査の相関関係というのを文部科学省が出しているが、その中で、国語、算数、数学、英語ともにベスト 5 の中に入っている設問である。かなり正答率と相関関係が高いと思う。見てのとおりだが、子どもたちの状況というのは、左側に矢印が向いているため、あまりいい傾向ではない。反対に、学校は右上に向かっているため、良い方向で捉えてある。ここに子どもたちの認識と学校の認識との差がある。学校は、子どもたちに、自分で考えて、自分から取り組んでいるような授業をしていると思っているが、子どもたちはそうではないということである。自分で考え、自分から取り組むという学習の在り方について、もう一回各学校で点検していく必要がある。

すみません、スライドナンバー34に間違いがあった。黄色でコメントしている下から2行目、「小中学校ともに、児童生徒意識調査の市の経年比較」としているが、児童生徒の意識調査ではなく、学校質問紙である。「学校質問紙の経年比較の割合は増加している」ということで、訂正をお願いします。

それから1枚めくっていただき、スライドナンバー35、36だが、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりするということだが、これは文部科学省の調査では今回分析していない。ただし、浜田市の重点として挙げているため分析をしている。矢印等々を見ていただいたら、大体の傾向がおわかりいただけると思うが、小中学校ともに話し合いが行われているということは見てとれる。ただし、授業改善の方向性でも出しているが、出された考えを比較検討しながら深めていく学習、ここを強化していく必要があると思う。

それから隣のページだが、学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめ、課題を解決していくということだが、これを実感している子どもたちは、経年比較で見えていくと増えている。下の学校質問紙を見ていただくと、やはりそういったことも多くの学校で行われている。この後の調査項目を見ていくと改善は必要というところが見えてくる。

次のページ、スライドナンバー39、40である。これまでの勉

強を活かして考えをまとめるということに直接関わるが、課題を設定し話し合っ、まとめ、表現する、そういった学習活動に関してである。いわゆる主体的・対話的で深い学び、ここに直接関わる設問だが、小学校ではいい方向に向かっている。中学校はその逆である。

先ほど出した、課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいく、これについて児童生徒の意識と学校の認識にずれがあったため、ここについてはもう一度しっかり見直していく必要があると思う。特に、自分から課題を設定すること、ここについて、特に中学校は力を入れていく必要があると思う。

次は、スライドナンバー41、42である。これは先ほど冒頭で申し上げた、主体的・対話的で深い学びに関わる授業改善というところで、最も低かった質問項目である。小学校、中学校ともに、学校質問紙の方では、県、全国を上回っていたり、経年比較でも伸びたりしているが、小学校では、児童の意識との差があると思っている。

特に浜田市の子どもたちの課題に直接関わるが、文章や資料を示しながら、自分の考えの根拠を示してきちんと筋道をたてて説明していく、そういった学習をもっと充実させていくためには、ここに力を入れていかないといけないと思っている。

それでは次、スライドナンバー43、44である。今後、課題だと思うのは、上の段、校外の研修に参加しているかという部分である。小学校、中学校ともに、県、全国よりも下回っている。特に中学校については、経年比較を見ても大きく下回っている。全員が指名指定されていく研修ではなく、自分から求めて、専門性を高めていく研修に参加しなくてはいけないということが、実態として見えてきている。

それから、次のスライドナンバー44である。ここが個別最適な学びの状況になっている。隣のページ、スライドナンバー45が学校の状況だが、この2つを見比べていくと、これから個別最適な学びについてさらに進めていく必要があると思っているが、まずは現在進めている子どもたちの声でつくる授業による授業改善、ここをしっかりとやっていただきたい。その上で、学習課題や課題解決方法を自分で選択して取り組んでいく、こういった授業を取り入れる。これは主体的な学びにつながる第一歩だが、もっとやってほしいということで伝えたいと思う。

この取組というのは、タブレット端末を活用した学び、そこに直接繋がっていく。ただ、これをやっていると、協働的な学びが捨てられていく傾向がある。個別最適な学びについても協働的な学びが必要であるということについては、きちんと指摘をしていかななくてはならないと思っている。

下のスライドナンバー46、家庭学習の状況である。計画を立てて勉強しているか、これについては下降傾向である。各中学校区で昨年度から力を入れてきているが、成果が表れてきていないということを危惧している。

スライドナンバー47、これは1日当たり1時間以上の勉強についてだが、小学校は昨年度より若干改善をしているが、経年で見ていくと下降傾向である。先ほどの計画を立て勉強するというところの1点を見ながら、その結果、家庭学習時間を見ていくようになっていくといいと思う。学校で説明するスライドの中では、メディアについては家庭がすべきことである、その代わり計画を立てて学習をしていく、そういった力をつけていくことは学校のやるべきことだ、だからここはしっかり力をいれてやっていただきたい、ということは伝えていきたいと思っている。

最後のスライドだが、しっかり分析をしていただきたいということと、本当に見える、わかるかたちでの具体的な方策にしてほしい。すべての学校、すべての教科できちんと行ってほしい。途中で進捗状況を確認しながら修正を加えていく。みんなでやり切っていただきたいということをお願いしたいと思う。

大変長くなったが、資料10については以上である。

前回の定例教育委員会では、簡易版ということで説明をして、今回、細かな質問項目なり結果を分析してもらい、そのデータを資料にしている。これを各学校がどう分析をして授業改善に繋げていくかということをやっていかなければならない。大変多くのボリュームだったが、委員方はこれを見られて何かご質問等あるか。

前回の時も見させていただいたが、やってきたことが少しずつ成果として出てきているのはとてもよろしいことで、この資料を各学校が見られ、元気が出ていくものだと思う。この調子で前進していただければと思う。取組をしている中で、例えばこういうアンケートなり、この辺が伸びているから、結果的に

岡田教育長

杉野本委員

岡田教育長
鳥居室長

成果となって表れているとか、特に指定校が力を入れてやっているところに効果が出ているとかいうような成功例がもし見えたら、各学校にもそれを伝えていくと、裏付けとなったもので、こうやるといいかなということで、勢いが加速していくのかなと思う。この取組を行ったから見てください、というだけではなく、この取組を行ったからここまで伸びているよという、何かもう少し経年的に見ていく必要があるかもしれないが、もし成果が見えているのであれば、このように紹介されると、学校も元気が出るかなという気がした。

もう1点、浜田市は県と比べると近づいてきているということだが、島根県としては全国の中でも落ちてきている部分があると感じている。県はどのようにその辺りを捉えているのか。そういう情報を交換する機会があったら、県としてはこの辺りが弱いところや、浜田ではこういう方向でやっている、県が弱点と考えているところはこういう形でカバーしながらやっているとか、気づかなかったところはさらに力を入れていく必要がある等、県の動きとの比較等、もし情報が入る機会があればまた聞かせていただくと喜ぶ。

以上である。

今のご指摘に対して、何かあるか。

今、示しているスライドは、盆前が締切だったため急遽作成した。今、学校向けに作成しているものについては若干修正を加えている。その中で一番加えているのが、各教科の正答率と児童生徒質問紙との相関についてスライドに載せている。その中で、先ほども申し上げたが、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいましたか、というのは、国語、算数、数学、英語の全て上位に入っている。国語では1位である。

そこら辺のところから、こちらが言っている授業改善、方向性のところについての説得力が出てくると思う。それぞれ細かな教科の正答率の上位3問、下位3問で分析しているところで、明らかに読解に関するところが弱いというのが見てとれる。特に、国語なんかは図書館活動や読解力の指定校が進めている取組をやらなくてはいけないということと、当たり前のことだが、国語の相関のところの上位5位の中に、数学の勉強がわかりますか、英語の勉強がわかりますか、という他教科の勉強がわかりますかというのも入っている。それは当然できる子ども

たちがそうだから相関があると言っている。ひとつの教科にいろんな教科が関係しているということが出てきているので、学力調査は、国語、算数、数学、英語だけではない、全ての教科が授業改善しなくてはいけないということは伝えられるのではないかと思う。

以上である。

岡田教育長

学力向上について、県と意見交換会が年に2回ある。そこで県から市町村の取組をよく聞かれる。しかし、県としてどこに力を入れているのか、あまり聞いたことはない。

確かにおっしゃるように、市町村それぞれがどういうふうに行っているか、県として全体として何に力を入れているかというところを、それぞれの自治体の教育委員会との意識合わせを進めていくことも大事なことだと思っているため、今いただいた杉野本委員の意見について私も県に伝えていきたい。

鳥居室長

教育長が出席されるのは、我々の1つ上の段階の会である。学力育成実務者会議というのがあり、そこでは県とその指導主事と我々市町村の指導主事とが意見交換している。ただ、我々の感覚で言うと、概観と傾向しか言わない。

岡田教育長

その辺りを、音頭を取れとまでは言わないが、何かこう、あれば。

倉本委員、英語の実態を見られてどう思われたか。

倉本委員

まず1つは、リスニングの問題の妥当性というのは、かなり問題になっていて、問題を作る方のベースはきちっと出来ていなかったと感じる。ただ、書く力、記述の力については、市内の授業を何回か見せてもらった中では、具体的には言わないが、改善の余地はかなりあるかなという、授業中の生徒の動かし方、その中で何を身につけていくかというのは、改善の余地がある気がしている。

ただ、地域の性格として、長いものをじっくり読んで、細かく論理的に読んでいくというのは、国語でも英語でも同じだと思う。そういう忍耐力やまとめる力が途中で切れてしまうのは浜田の特徴かなと思っていて、そういう訓練がまた必要かなと思っている。関係ないことだが、ただ、記述の力を伸ばすのはやはり授業のやり方が1つ、改善の余地はあると思っている。

それと、3点ほど感想だが、資料の最初のところにあった、身につけた知識や技術を活用する時間の不足というのは、また

これも1つの課題だろうという気がした。要するに、演習をすることやドリルをすること、そういう場面設定をしながら、合理的な問題を減らしていくというところは課題で、それは今の学校の授業時間の中でどうやって作り出していくかということは多分難しいところで、それは学校の課題だろうという気がした。

それから、授業改善の意識について、児童生徒と教員の間でずれがある、これがある意味では、確かに子どもにそれを徹底することが最終的なゴールかもしれないが、教員の意識が変わっていくというところが、学力向上のまず第1であると思う。教員がそういう意識を持ってやらない限りは、絶対子どもはついてこないというところで、教員の意識が変わってきていることはいい傾向ではないかと思う。

ただ、それが、3点目だが、おそらく、悉皆研修以外の研修に自主的に出ようという、時間的余裕がないというところに響いてきたのかというような感想を持った。

研修に出られない職員が、今のところやむを得ないかなというゆとりとか、いろんな働き方を考えるところで、とりあえず今、教員の意識が変わってきたというのは、ある意味では良いことだなと感じている。

以上である。

ありがとうございました。

この前、ICTの授業を美川小学校で見ていただいたが、授業が終わった後、授業者がどうだったかと聞いてきたが、前半だめだと話をした。時間をかけすぎ。なぜ全員が書き終わるのを待つのか。あの後、話し合いがあった。途中まででいい。ここでしっかり話し合わせて、それで生み出した時間を最後に置いて、タイトルをつける、見出しをつける、比較検討していく、要するに知識を活用するところをやっていかなければだめだということをおっしゃっていただいた。得てして、全ての学校がそういう状況で、そこを改善しなくてはいけないと思う。

その他に何かあるか。

特になし。

岡田教育長
鳥居室長

岡田教育長
各委員

山本課長

市内小中学生における全国大会出場について（資料11）

資料11をご覧いただき、市内小中学生における全国大会出

場について報告をさせていただく。

市内の小中学生のスポーツ活動における全国大会の出場の状況であるが、4種目、全部で15名の方が、8月、9月に行われる全国大会に出場されている。陸上においては、浜田ジュニア陸上競技教室の藤田さんと三明さんが、9月に行われる全国大会に出場される。卓球では、OTSジュニアの杉本さんと石倉さんが、これはもう終わっているが、7月末から8月中旬にかけて、東京と兵庫で行われた全国大会に出場されている。

ソフトテニスについては、浜田ジュニアソフトテニスクラブの3名の方が、8月上旬に兵庫県で開催された全国大会に出場されている。最後、空手道については、島根県空手道連盟の8名の方が、8月上旬に行われた東京での全国大会に出場されている。

なお、全国大会出場について、皆さん市長または教育長に表敬を行っていただき、市長と教育長から激励の言葉をいただいている。

岡田教育長
各委員

資料11について、委員方ご質問等があるか。
特になし。

4 その他

(1) その他

岡田教育長
日ノ原係長
岡田教育長

各委員

事務局からその他何かあるか。
特になし。
その他のところで、委員方からご報告や質問があればお願いする。
特になし。

次回定例会日程

定例会 9月26日(火) 13時30分から 北分庁舎2階会議室1

次々回定例会日程

定例会 10月23日(月) 13時30分から 北分庁舎2階会議室1

14:35 終了